

現代美術の海外発信に関する検討会設置要項

平成 26 年 4 月 1 日 文化庁長官決定

(目的)

第 1 条 我が国の優れた現代美術の海外への発信を促進するため、その効果的な方策等を検討するため、「現代美術の海外発信に関する検討会」(以下「検討会」という。)を設置する。

(構成)

第 2 条 検討会は、別紙に掲げる委員をもって構成する。

- 2 委員の任期は、委嘱の日から翌年 3 月末までとする。
- 3 必要に応じて、委員以外の協力をえることができる。

(検討事項)

第 3 条 検討会は、次に掲げる事項について検討を行うものとする。

- (1) 現代美術の効果的な海外への発信手法について
- (2) 国民の現代美術に対する理解増進に資する方策について
- (3) 優れた現代美術作品の創造を促進するための支援について
- (4) 現代美術の海外発信を担う人材の育成について
- (5) その他現代美術の海外発信に関すること

(座長)

第 4 条 検討会に座長を置き、委員の互選により選任する。

- 2 座長は、検討会を代表し、会務を総理する。

(検討会の開催等)

第 5 条 検討会の開催は、座長が招集し、主宰する。

- 2 検討会は、原則として委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

(会議内容の公表)

第6条 検討会の議事は、原則として公開とする。ただし、特別の事情により検討会が必要と認めるときは、この限りでない。

(庶務)

第7条 検討会の庶務は、文化庁文化部芸術文化課において行う。

(別 紙)

現代美術の海外発信に関する検討会委員名簿

逢坂 恵理子	横浜美術館館長
蔵屋 美香	独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館美術課長
後藤 繁雄	京都造形芸術大学教授、編集者
南條 史生	森美術館館長
林 道郎	上智大学国際教養学部教授
松井 みどり	美術批評家
宮島 達男	現代美術家、東北芸術工科大学副学長、京都造形芸術大学副学長
宮津 大輔	アート・コレクター
山本 豊津	東京画廊代表取締役
山本 ゆうこ	山本現代代表

(敬称略、五十音順)

芸術文化の世界への発信と新たな展開

(25年度予算額 932百万円)
26年度予算額 1,097百万円

趣旨

舞台芸術や現代アートなど、我が国の優れた芸術文化を積極的に海外に発信するとともに、各分野における国際文化交流を推進することにより、我が国の芸術水準の飛躍的向上を図り、我が国における芸術文化の創造力と国際競争力を高め、「文化芸術立国」の推進に資する。

事業概要

音楽、舞踊、演劇等の舞台芸術や映画、現代アートなど各分野における我が国の優れた芸術文化を世界に発信するため、海外のフェスティバルへの参加・出展、国内における国際フェスティバルの開催、海外の芸術団体との共同制作などの取組に対し支援を行う。

国際共同制作支援(舞台芸術)

我が国の芸術団体と外国の芸術団体との国際共同制作公演に対して支援



国際フェスティバル開催支援 (舞台芸術、**新規** 現代アート、映画)

我が国で開催される海外発信力のあるフェスティバル等に対して支援
(例) 横浜トリエンナーレ、東京国際映画祭、アートフェア東京

海外国際フェスティバル展覧会 参加出展等支援 (舞台芸術、**新規** 現代アート)

海外で開催されるフェスティバルや展覧会への参加や出展等を支援
(例) アヴィニオン演劇祭(フランス)、ヴェネチアビエンナーレ(イタリア)
アートバーゼル(スイス)

事業の実施

【効果】

- 我が国の芸術文化の世界的な評価が高まる
 - 世界における我が国の文化のプレゼンス向上
 - 国民が優れた芸術文化に触れる機会の充実
- 世界への日本文化の普及とインバウンド拡大
 - 世界市場のシェアの拡充
 - 芸術文化への理解増進
- 日本ブランドの向上
 - 心豊かな生活



文化庁における美術分野に係る主な取組

【芸術家等の顕彰】

◆文化勲章

趣旨：文化の発展に関し勲績卓絶に者に対し、授与。

対象：芸術分野では、美術のほか、文芸、音楽、演劇等が対象。原則として前年度までの文化功労者の中から選ばれる。

平成 25 年度：高木聖鶴（書）、高倉 健（映画）ほか

◆文化功労者

趣旨：文化の向上発展に関し特に功績顕著な者を顕彰。

対象：文化勲章と同様、美術、文芸、音楽、演劇等。

平成 25 年度：上村淳之（日本画）、槇 文彦（建築）ほか

◆芸術選奨

趣旨：その年に優れた業績をあげた者又はその業績によって新生面を開いた者に、芸術選奨文部科学大臣賞又は同文部科学大臣新人賞を贈呈。

対象：美術をはじめ、演劇、映画、音楽、舞踊等 11 部門

平成 25 年度：

大臣賞 大竹伸朗（美術家）、福田美欄（画家）ほか

新人賞 米田知子（写真家）、五十嵐太郎（建築批評・建築史家）ほか

【芸術文化振興基金】

趣旨：約 653 億円（政府から出資金約 541 億円、民間から出せん金約 112 億円）の基金を運用し、その運用益をもって安定的・継続的に多様な芸術文化活動を援助。

対象：①芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動

②地域の文化の振興を目的として行う活動

③文化に関する団体が行う文化の振興又は普及を図るための活動
平成 25 年度：

採択 745 件、交付予定額 1,213 百万円

①のうち美術の創造普及活動 採択 8 件、交付予定額 16 百万円

「さわひらき展」(東京オペラシティ文化財財団)ほか

②のうち美術館等展示活動 採択 86 件、交付予定額 151 百万円

「ダレン・アーモンド展」(水戸市芸術振興財団)ほか

【新進芸術家等の人材育成】

◆新進芸術家海外研修制度

趣旨：海外における研修に係る渡航費及び滞在費を支援することにより、我が国の新進芸術家等がその専門分野において実践的に研修する機会を提供。

対象：美術をはじめ、音楽、舞踊、演劇、舞台美術等の 7 分野

種別：1 年派遣、2 年派遣、3 年派遣、特別派遣(80 日)、高校生派遣(音楽・舞踊)の 5 種類。平成 26 年度からは、短期(30 日)派遣を追加。

平成 25 年度：78 名を派遣。このうち、美術分野は 24 名。

◆次代の文化を創造する新進芸術家育成事業

趣旨：新進芸術家等に、基礎や技術を磨くために必要な公演などの実践的な研修機会の提供や幅広い知識を得るためのワークショップ、セミナーの実施等を芸術団体等からの提案を受けて実施。

対象：音楽、舞踊、演劇、大衆芸能、その他(美術、映画等)

企画：①芸術団体等を構成員とする統括団体が行う事業企画。

②複数の芸術系大学等が連携して行う企画又は芸術系大学等が上記①の統括団体と連携して行う事業企画。

平成 25 年度：

採択 39 件、うち美術分野 2 件

「未来を担う美術家 DOMANI・明日展 2014 文化庁芸術家在外研修の成果」
(株式会社アート・ベンチャー・オフィスショウ) ほか

【地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ事業】

趣旨：地方公共団体が企画する優れた文化芸術活動等を補助することにより、地域文化の再生やコミュニティの再構築、ひいては地域の活性化を推進。

対象：音楽、演劇、舞踊、メディア芸術などを中心とした地域振興のための事業
平成 25 年度：

採択 126 件

「国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」開催事業」（愛知県）

「港で出会う芸術祭 神戸ビエンナーレ」（兵庫県）ほか

【文化芸術活動等を支える人材の育成】

◆ミュージアム・マネジメント研修

主催：文化庁（3 日間程度）

対象：全国の美術館・歴史博物館の管理職、地方公共団体の文化行政担当者等 50 名程度を対象。

内容：美術館・歴史博物館の企画及び管理運営に必要な能力に関する研修。

◆ミュージアム・エデュケーター研修

主催：文化庁（5 日間程度）

対象：全国の美術館・歴史博物館の学芸員等 50 名程度。

内容：美術館・博物館における教育普及に必要な能力に関する研修。

【日本古美術海外展】

趣旨：我が国の優れた文化財を諸外国に紹介し、日本の歴史、文化に対する理解の増進と国際親善に寄与。

平成 25 年度：

名称 「日本文化」展

主催 文化庁、九州国立博物館、ベトナム国立歴史博物館

期間 平成 26 年 1 月 16 日から 3 月 9 日

会場 ベトナム国立歴史博物館（ハノイ）

概要 縄文時代から江戸時代にかけての考古資料、絵画、工芸品、古文書等、我が国の文化と歴史に関する資料 70 件を展示。特に仏教美術や朱印船貿易に係る史料など両国の交流に関連の深い品々にスポットをあてて紹介。

海外での展覧会（独立行政法人国際交流基金主催）（HP より）

[平成 25 年度]

- ◆ 「蚕—皇室のご養蚕と古代裂、日仏絹の交流」展
会 期：2014 年 2 月 19 日から 4 月 5 日
会 場：パリ日本文化会館（フランス・パリ）
主 催：宮内庁、文化庁、国際交流基金
概 要：皇后陛下のご養蚕と小石丸（古い純国産の蚕）による正倉院裂の複製品
さらには日仏交流の様子を示す作品を加えて展覧。

- ◆ 「加賀百万石～金沢に花開いたもう一つの武家文化」展
会 期：2013 年 10 月 2 日から 12 月 14 日
会 場：パリ日本文化会館（展示ホール）
主 催：国際交流基金、パリ日本文化会館
概 要：金沢の地で生み出された貴重な美術・工芸作品、武具、楽器や茶道具、
能装束・能面等、約 120 点を展示。生活と深く結びつくことによって
成立した「もう一つの武家文化」を紹介。
キュレーター：末吉守人（美術史家）

- ◆ 「日本と東南アジアのメディア・アート」展
会 期：2013 年 9 月 5 日から 2014 年 2 月 16 日
会 場：インドネシア国立美術館、アラヤ美術館 ほか
主 催：国際交流基金 ほか
概 要：日・ASEAN 各国の若手キュレーターとアーティストの協働作業。メデ
ィア・アートを映像、写真、音、パフォーマンスなど領域横断的に捉え、
開催都市であるジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、バンコクの現
地事情を反映した展覧会、クリエイティブ・ラボ、ワークショップなど
で構成される総合イベント。
キュレーター：岡村恵子（東京都写真美術館学芸員）、合田大也（山口情報芸術

センター[YCAM]主任エデュケーター)、服部浩之(青森公立大学国際芸術センター青森[ACAC]学芸員) ほか

[平成 24 年度]

- ◆ 「Re:Quest—1970 年代以降の日本の現代美術」展
会 期：2013 年 3 月 5 日から 4 月 14 日
会 場：ソウル大学美術館
主 催：ソウル大学美術館、国際交流基金
概 要：韓国ではまとまって形で紹介されることのなかった 1970 年以降の作品より、今なお影響を与え続けている重要な美術家の作品から若手作家の作品まで、日本現代美術の 40 年間を多角的な視点から概観。
キュレーター：松本透(東京国立近代美術館副館長)、拝戸雅彦(あいちトリエンナーレ 2013 キュレーター)、神谷幸江(広島現代美術館学芸担当課長) ほか

- ◆ 「近代日本画と工芸の流れ 1868—1945」展
会 期：2013 年 2 月 23 日から 5 月 5 日
会 場：ローマ国立近代美術館
主 催：国際交流基金、ローマ日本文化会館、京都国立近代美術館、ローマ国立近代美術館
概 要：明治維新以後、昭和戦前期までの近代日本画と工芸の歩みを、日本画約 110 点、工芸(陶芸、漆芸、染織、金工など)約 60 点で辿る。
監 修：尾崎正明(京都国立近代美術館長) ほか

- ◆ 「笑いの日本美術史 縄文から 19 世紀まで」展
会 期：2012 年 10 月 3 日から 12 月 15 日
会 場：パリ日本文化会館(展示ホール)
主 催：国際交流基金、パリ日本文化会館、パリ日本文化会館支援協会
概 要：禅的な精神性、またはマンガ、ポップといったステレオタイプの面が強調される日本文化の受容傾向に対して、日本の古美術における「笑い」をユニークな視点でさぐる。日本美術そして日本の再発見の場となることを期待。
キュレーター：廣瀬麻美(森美術館学芸部シニアコンサルタント)

- ◆ 「ダブル・ヴィジョン—日本現代美術」展
会 期：2012 年 3 月 14 日から 12 月 15 日

会 場：モスクワ市近代美術館、ティコティン日本美術館・ハイファ美術館

主 催：モスクワ市立近代美術館、ハイファ美術館群、国際交流基金

概 要：1960年代からゼロ年代までに活躍する日本人作家、森村泰昌、大竹伸朗、小沢剛、さわひらき等約30名が参加。

キュレーター：保坂健二郎（東京国立近代美術館主任研究員） ほか

◆「TOKYO 1955-1970：新しい前衛」展

会 期：2012年11月18日から2013年2月25日

会 場：ニューヨーク近代美術館

主 催：国際交流基金、ニューヨーク近代美術館

概 要：絵画、彫刻、ドローイング、写真、グラフィック・デザイン、実験映画アニメーションなど多様なメディアの作品を網羅し、作家たちが急速に成長し、変身する首都のエネルギーを吸収して手がけた種々の前衛的な試みを紹介。

世界の主要国際展（1/4）

ベネチアビエンナーレ(Biennale di Venezia)

- 実施時期: 2013年6月1日 – 11月24日 (175日間)
- 実施場所: イタリア・ベネチア
- 開始時期: 1985年
- 実施頻度: 2年おき
- これまでの開催回数: 55回
- 出展作家数: 161 (38ヶ国) ※国別のパビリオンは除く
- 概要:
世界で最も歴史があり、かつ、最大規模の国際展。国立造船所であったアルセナーレと公園のジャルディーニを主会場としている。アルセナーレとジャルディーニにある展示館ではベネチアビエンナーレ事務局によってたてられたディレクターによってキュレーションが行われる。そのほか、国別パビリオンがビエンナーレ会場内外に数多く存在し、各国が自国の負担によって作家の展示を行う。

ミュンスター彫刻プロジェクト(Skulptur Projekte Münster)

- 実施時期: 2007年6月16日 – 9月30日 (106日間)
- 実施場所: ドイツ・ミュンスター
- 開始時期: 1977年
- 実施頻度: 10年おき
- これまでの開催回数: 4回
- 出展作家数: 36
- 概要:
過去にヘンリー・ムーアが自作の彫刻をミュンスター市に寄贈しようとしたが、市がそれを断った歴史を反省し、文化の普及を目的に開催されるようになった。広大な土地に作品が展示される。

ドクメンタ(documenta)

- 実施時期: 2012年6月9日 – 9月16日 (99日間)
- 実施場所: ドイツ・カッセル
- 開始時期: 1955年
- 実施頻度: 5年おき
- これまでの開催回数: 13回
- 出展作家数: 114
- 概要:
ドイツの地方都市であるカッセル(人口20万人規模)において行われる国際展。ナチス・ドイツが退廃芸術として弾圧した作家・作品を回顧する目的から始められた。複数会場のキュレーションを1人のディレクターに任せ、毎回、実験的な取り組みを行うことで有名である。

リヨン・ビエンナーレ(Biennale de Lyon)

- 実施時期: 2013年9月12日 – 2014年1月5日 (115日間)
- 実施場所: フランス・リヨン
- 開始時期: 1991年
- 実施頻度: 2年おき
- これまでの開催回数: 12回
- 出展作家数: 77 (21ヶ国)
- 概要:
仏文化省が入場者不足により85年以来中断していた国際展(パリ・ビエンナーレ)の復活を目指し、文化政策に注力していたリヨンを土俵として開催されることになった国際展。

世界の主要国際展（2/4）

■ サンパウロ・ビエンナーレ(São Paulo Biennial)

- 実施時期: 2012年9月7日 – 12月9日(94日間)
- 実施場所: ブラジル・サンパウロ
- 開始時期: 1951年
- 実施頻度: 2年おき
- これまでの開催回数: 30回
- 出展作家数: 110
- 概要: ベネチアビエンナーレに次いで歴史のあるビエンナーレ。ベネチアビエンナーレと同様にディレクターを任命し、ディレクターがテーマ設定、キュレーションを行うとともに各国のコミッショナーがそれぞれ各国の作家を選定している。近年は、予算が縮小され過去のような存在感は失われている。

■ 上海ビエンナーレ(Shanghai Biennale)

- 実施時期: 2012年10月2日 – 2013年3月31日(180日間)
- 実施場所: 中国・上海
- 開始時期: 1996年
- 実施頻度: 2年おき
- これまでの開催回数: 9回
- 概要: 中国で最大規模の国際展。2012年から発電所をリノベーションした上海当代芸術博物館を会場としている。2000年は清水敏男氏が、2002年には長谷川祐子氏がコミッショナーをつとめている。入場料は無料。

■ アジア・パシフィック・トリエンナーレ

(Asia Pacific Triennial of Contemporary Art)

- 実施時期: 2012年12月8日 – 4月14日(128日間)
- 実施場所: オーストラリア・クインズランド
- 開始時期: 1993年
- 実施頻度: 3年おき
- これまでの開催回数: 7回
- 出展作家数: 75(27ヶ国)
- 概要: クインズランド美術館とその別館で行われているアジア、太平洋、およびオーストラリアの現代アートに特化した国際展。展示作品の一部は美術館に収蔵される。

■ シンガポール・ビエンナーレ(Singapore Biennale)

- 実施時期: 2014年10月26日 – 2014年2月16日(112日間)
- 実施場所: シンガポール
- 開始時期: 2006年
- 実施頻度: 2年おき
- これまでの開催回数: 4回
- 出展作家数: 52
- 概要: IMF総会の誘致をきっかけに、都市のブランディングを目的として実施されている国際展。作家の大半は東南アジアから選定されている。2006年と2008年には南條史生氏がアーティスティック・ディレクターをつとめている。

世界の主要国際展（3/4）

光州ビエンナーレ(Gwangju Biennale)

- 実施時期:2012年9月7日 – 11月11日(66日間)
- 実施場所:韓国・光州
- 開始時期:1995年
- 実施頻度:2年おき
- これまでの開催回数:9回
- 出展作家数:93(44ヶ国)
- 概要:光州事件の反省のもと、文化的な都市を目指すべく1995年から開催されている国際展。アジアでは最大規模。実力のある若手のキュレータを任命する傾向がある。2012年には6名の共同キュレーション制がとられ、日本から片岡真実氏が選ばれた。

イスタンブール・ビエンナーレ(Istanbul Biennial)

- 実施時期:2013年9月14日 – 10月20日(38日間)
- 実施場所:トルコ・イスタンブール
- 開始時期:1987年
- 実施頻度:2年おき
- これまでの開催回数:13回
- 出展作家数:88
- 概要:イスタンブール文化芸術基金によって実施されている国際展。イスタンブール市内の各歴史的建造物を展示場所としている。2001年には長谷川祐子氏がディレクターをつとめている。

釜山ビエンナーレ(Busan Biennale)

- 実施時期:2012年9月22日 – 11月24日(64日間)
- 実施場所:韓国・釜山
- 開始時期:2000年
- 実施頻度:2年おき
- これまでの開催回数:7回
- 出展作家数:80
- 概要:韓国で光州ビエンナーレと双璧をなす国際展。釜山市立美術館、釜山市文化会館、釜山鎮駅などを会場としている。

台湾ビエンナーレ(Asian Art Biennial)

- 実施時期:2013年10月5日 – 2014年1月5日(92日間)
- 実施場所:台湾・台中
- 開始時期:2008年
- 実施頻度:2年おき
- これまでの開催回数:4回
- 出展作家数:36
- 概要:台湾で唯一の国立美術館である国立台湾美術館にて行われる国際展。

世界の主要国際展（4/4）

シャルジャ・ビエンナーレ(Sharjah Biennial)

- 実施時期: 2013年3月13日 – 5月13日 (62日間)
- 実施場所: UAE・シャルジャ
- 開始時期: 1993年
- 実施頻度: 2年おき
- これまでの開催回数: 11回
- 出展作家数: 99
- 概要: シャルジャは1988年にユネスコから中東文化首都として指定されており、1993年にはシャルジャ芸術財団によりビエンナーレが開始されている。2013年には長谷川祐子氏がディレクターをつとめている。入場料は無料。

台北ビエンナーレ(Taipei Biennial)

- 実施時期: 2012年9月29日 – 2013年1月13日 (106日間)
- 実施場所: 台湾・台北
- 開始時期: 1998年
- 実施頻度: 2年おき
- これまでの開催回数: 8回
- 出展作家数: 58
- 概要: 当初は台湾と国外のコミッショナーによる、共同コミッショナー制をとっていた。1998年には南條史生氏がコミッショナーをつとめている。

世界の主要アートフェア（1 / 3）

アート・バーゼル(Art Basel)

- 実施時期: 2014年6月19-22日(4日間)
- 実施場所: スイス・バーゼル
- 開始時期: 1970年
- 概要:
世界の主要なギャラリーが出展している、世界で最も著名なアートフェア
- 出展ギャラリー数: 271
(33ヶ国から出展。なかでも、アメリカ、ドイツ、イギリスからの出展が多い。)
- メインスポンサー: UBS(金融機関、1994年より)
- 日本の出展ギャラリー:
タカ・イシイギャラリー、ギャラリー小柳、スカイ・ザ・バスハウス、ShugoArts、
小山登美夫ギャラリー、Take Ninagawa

フィアック(FIAC)

- 実施時期: 2013年10月24 - 27日(4日間)
- 実施場所: フランス・パリ
- 開始時期: 1974年
- 概要: フランスで最大のアートフェア。
2005年からはパリのグランパレを会場にしている。
- 出展ギャラリー数: 184
(フランス、アメリカからの出展が多く、あわせて全体の約半数を占める。)
- メインスポンサー: ギャラリー・ラファイエット・グループ
(百貨店、2009年より)
- 日本の出展ギャラリー: 出展なし

リスト(Liste)

- 実施時期: 2014年6月17 - 21日(5日間)
- 実施場所: スイス・バーゼル
- 開始時期: 1996年
- 概要:
アート・バーゼルと同時期に開催されている。アート・バーゼルと比較して、
若手のギャラリーが出展する傾向がある。
- 出展ギャラリー数: 78
(30ヶ国から出展。なかでも、ドイツ、アメリカ、イギリスからの出展が多い)
- メインスポンサー: E. Gutzwiller & Cie(金融機関、1997年より)
- 日本の出展ギャラリー: Aoyama/Meguro

アート・ケルン(ART COLOGNE)

- 実施時期: 2014年4月10 - 13日(4日間)
- 実施場所: ドイツ・ケルン
- 開始時期: 1967年
- 概要: 世界で最も古いアートフェア。
- 出展ギャラリー数: 245
(ドイツからの出展が多い。ドイツだけで全体の約半数を占める。)
- 日本の出展ギャラリー:
アキラ イケダ ギャラリー、MIYAKE FINE ART、
NANZUKA contemporary art gallery、タグチファインアート

世界の主要アートフェア（2/3）

フリーズ・ロンドン(Frieze Art Fair London)

- 実施時期: 2013年10月17 – 20日(4日間)
- 実施場所: イギリス・ロンドン
- 開始時期: 2003年
- 概要: イギリスで最大のアートフェア。リージェンツ・パークの自然光を取り入れた特設会場で行われている。主催者であるフリーズ財団はアート雑誌「フリーズ」も発行。
- 出展ギャラリー数: 152 (イギリス、アメリカ、ドイツからの出展が多い)
- メインスポンサー: ドイツ銀行(金融機関、2008年より)
- 日本の出展ギャラリー:
タカ・イシイギャラリー、Take Ninagawa、AOYAMA | MEGURO

ニューヨーク・アーモリー・ショー(Armory Show)

- 実施時期: 2014年3月6 – 9日
- 実施場所: アメリカ・NY
- 開始時期: 1994年
- 概要: グラマシーホテルで開始されたアートフェア。1999年からは、1913年に実施されたアーモリー・ショーと同じ場所に会場を移動し、また、名称も変更している。
- 出展ギャラリー数: 203
(アメリカからの出展が多い。アメリカだけで全体の約半数を占める。)
- 日本の出展ギャラリー: Whitestone Gallery

フリーズ・ニューヨーク(Frieze New York)

- 実施時期: 2014年5月9 – 12日
- 実施場所: アメリカ・NY
- 開始時期: 2012年
- 出展ギャラリー数: 192 (アメリカ、ドイツ、イギリスからの出展が多い)
- 概要: フリーズ財団が実施。ロンドンと同じく自然光を取り入れた特設会場で行われている。
- メインスポンサー: ドイツ銀行(金融機関、2012年より)
- 日本の出展ギャラリー: タカ・イシイギャラリー、TARO NASU、Take Ninagawa、Misako & Rosen

アート・バーゼル・マイアミビーチ(Art Basel Miami Beach)

- 実施時期: 2013年12月3 – 8日(6日間)
- 実施場所: アメリカ・マイアミ
- 開始時期: 2002年
- 概要: マイアミで行われている、アート・バーゼルの関連フェア。
- 出展ギャラリー数:
258(アメリカからの出展が多い。アメリカだけで全体の約4割を占める。)
- メインスポンサー: UBS(金融機関、2002年より)
- 日本の出展ギャラリー:
小山登美夫ギャラリー、スカイ・ザ・バスハウス

世界の主要アートフェア（3/3）

NADA マイアミ(NADA Miami Beach)

- 実施時期: 2013年12月5 – 8日(4日間)
- 実施場所: アメリカ・マイアミ
- 開始時期: 2003年
- 概要: 2002年に立ち上げられたNew Art Dealers Alliance (NADA)によって実施されているアートフェア。現在では、マイアミのほか、ニューヨーク、ケルンでもフェアが実施されている。
- 出展ギャラリー数: 89
(アメリカからの出展が多い。アメリカだけで全体の約7割を占める。)
- 日本の出展ギャラリー:
MISAKO & ROSEN、無人島プロダクション、XYZ Collective

アート・バーゼル香港(Art Basel Hong Kong)

- 実施時期: 2014年5月15 – 18日(4日間)
- 実施場所: 中国・香港
- 開始時期: 2013年
- 概要: アート・バーゼルの関連フェア。
元々アート香港として実施されていたが、2013年にアート・バーゼルによる出資に伴い、アート・バーゼル香港となった。
- 出展ギャラリー数: 244
(中国を中心としつつも様々な国からの出展が多い(36ヶ国から出展))
- メインスポンサー: UBS(金融機関、2013年から)
- 日本の出展ギャラリー: タカ・イシイギャラリー、小山登美夫ギャラリー、ミヅマアートギャラリー、ギャラリー小柳、OTA FINE ARTS、スカイ・ザ・バスハウス、ShugoArts、東京画廊+BTAP、山本現代など20ギャラリー

アート北京(ART BEIJING)

- 実施時期: 2014年4月30 – 5月3日(4日間)
- 実施場所: 中国・北京
- 開始時期: 2006年
- 概要: 民間企業によって立ち上げられたアートフェア。現代美術だけでなく古美術も扱う。スポンサーは年によって変更があるが、2014年のメインスポンサーはインフィニティ(日産自動車の高級車ブランド)が担っている。
- 出展ギャラリー数: 131
(中国からの出展が多い。中国だけで全体の約8割を占める。)
- 日本の出展ギャラリー: Frantic Gallery

アート・ステージ・シンガポール(Art Stage Singapore)

- 実施時期: 2014年1月16 – 19日(4日間)
- 実施場所: シンガポール
- 開始時期: 2011年
- 概要: アジアに特化したアートフェアとして位置づけられている。
- 出展ギャラリー数: 158
(シンガポールを中心としつつも様々な国からの出展が多い(28ヶ国から出展)。)
- 日本の出展ギャラリー:
OTA FINE ARTS、ミヅマアートギャラリー、児玉画廊、
ギャラリー広田美術、ARATANIURANO、小林画廊、NANZUKA、
SHUGOARTS、山本現代、小山登美夫ギャラリーラリーなど15ギャラリー

主要国外アートフェアへの国内ギャラリーの出展状況(欧米)

アートフェア名	アート・バーゼル (Art Basel)	LISTE	FIAC	フリーズ・ロンドン(Frieze Art Fair London)	アート・ケルン (ART COLOGNE)
会期	2014年 6月19-22, 2014	2014年 6月17 - 21日	2013年 10月24 - 27日	2013年 10月17 - 20日	2014年 4月10 - 13日
場所	スイス・バーゼル	スイス・バーゼル	フランス・パリ	イギリス・ロンドン	ドイツ・ケルン
出展ギャラリー	【GALLERIES】 ・タカ・イシイギャラリー ・ギャラリー小柳 ・スカイ・ザ・バスハウス ・ShugoArts ・小山登美夫ギャラリー 【FEATURE】 ・Take Ninagawa	出展なし	出展なし	【Exhibitors】 ・タカ・イシイギャラリー 【Focus】 ・Take Ninagawa 【Frame】 ・AOYAMA MEGURO	・アキラ イケダ ギャラ リー ・MIYAKE FINE ART ・NANZUKA contemporary art gallery ・タグチファインアート

アートフェア名	フリーズ・ ニューヨーク (Frieze New York)	ニューヨーク・アーモリー・ ショー(Armory Show)	アート・バーゼル・マイア ミビーチ(Art Basel Miami Beach)	NADA マイアミ(NADA Miami Beach)
会期	2014年 5月9 - 12日	2014年 3月6 - 9日	2013年 12月3 - 8日	2013年 12月5 - 8日
場所	アメリカ・NY	アメリカ・NY	アメリカ・マイアミ	アメリカ・マイアミ
出展ギャラリー	【Exhibitors】 ・タカ・イシイギャラリー ・TARO NASU 【Focus】 ・Take Ninagawa 【Frame】 ・Misako & Rosen	・Whitestone Gallery	【GALLERIES】 ・小山登美夫ギャラリー ・スカイ・ザ・バスハウス	【Galleries】 ・MISAKO & ROSEN ・無人島プロダクション 【Projects】 ・XYZ Collective

主要国外アートフェアへの国内ギャラリーの出展状況(アジア)

アートフェア名	アート北京 (ART BEIJING)	アート・バーゼル香港 (Art Basel Hong Kong)	アート台北 (ART TAIPEI)	アート・ステージ・ シンガポール (Art Stage Singapore)
会期	2014年 4月30 – 5月3日	2014年 5月15 – 18日	2013年 10月30日 – 11月3日	2014年 1月16 – 19日
場所	中国・北京	中国・香港	台湾・台北	シンガポール
出展ギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> • Frantic Gallery 	<p>【GALLERIES】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ミヅマアートギャラリー • NANZUKA contemporary art gallery • Kaikai Kiki Gallery • ギャラリー小柳 • OTA FINE ARTS • スカイ・ザ・バスハウス • ShugoArts • 東京画廊+BTAP • 山本現代 <p>【INSIGHTS】</p> <ul style="list-style-type: none"> • GALLERY小暮 • MISA SHIN GALLERY • Gallery SIDE 2 • Y++ Wada Fine Arts <p>【DISCOVERIES】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ARATANIURANO • 無人島プロダクション • Take Ninagawa 	<ul style="list-style-type: none"> • DMOARTS • G/P + g3/ gallery • Galleria Grafica Tokio • GALLERY小暮 • 小林画廊 • Kaikai Kiki Gallery • MIYAKE FINE ART • 日動コンテンポラリーアート • Ohshima Fine Art • 彩鳳堂画廊 • ShugoArts • 湘南台画廊 • Gallery Suchi • ギャラリー椿 • waitingroom • Whitestone Gallery • YOD Gallery • ギャラリー戸村 • 東京画廊+BTAP 	<ul style="list-style-type: none"> • OTA FINE ARTS • ミヅマアートギャラリー • ギャラリー広田美術 • ARATANIURANO • アートフロントギャラリー • CLEAR EDITION & GALLERY • Frantic Gallery • G/P + g3/ gallery • 小林画廊 • NANZUKA • SHUGOARTS • WHITESTONE GALLERY • 山本現代 • 酉福ギャラリー • YUMIKO CHIBA ASSOCIATES • 小山登美夫ギャラリー

論点（案）

我が国の現代美術を効果的に海外に発信するために、文化庁として取り組むべき具体的な方策等について御議論いただく。

1. 日本の現代美術についての基本的認識について

【前提】

現代美術は、既存の概念にとらわれない前衛的で新しい表現活動であり、さまざまな文脈や位置付け（文化、歴史、哲学、科学、地域など）のなかでとらえられ、幅広く国内外で活動が展開されている。

【論点】

○日本の現代美術の現状、評価について、どのように考えるか。

○日本の現代美術の果たす役割や海外に発信する意義をどのように考えるか。

2. 日本の現代美術の振興・海外発信に向けた方策について

【前提】

日本の現代美術を海外に発信するためには、その基盤となる国内における現代美術の振興を図るとともに、その上で、日本の現代美術を効果的に海外に発信するための戦略を具体的に策定する必要がある。

【論点】

○国内における現代美術の振興を図るためには、どのような方策が必要か。

(検討事項例)

- ・国民の現代美術に対する理解の増進
- ・子供の現代美術に対する興味関心の増大
- ・優れた現代美術作品の創造の促進

○日本の現代美術を海外に効果的に発信するためには、どのような方策が必要か。

(検討事項例)

- ・日本の現代美術作品の効果的な海外への発信方策
- ・現代美術の海外発信を担う人材の育成
- ・日本の現代美術に関する情報の海外に向けた発信
- ・海外の現代美術に関する最新情報の収集、分析

今後のスケジュール（案）

【全 体】

- ・本検討会は、概ね本年6月中旬までに3回程度開催し、原則自由討議により出された委員の意見を取りまとめ、平成27年度概算要求に所要事項を要求する。
- ・本検討会のとりまとめは、委員の意見を項目毎に整理することで行う。

【各 回】

○第1回（平成26年4月22日（火））

- ・座長の選出
- ・検討会の運営について
- ・我が国の現代美術を海外に発信するための方策等（意見交換）

○第2回（平成26年5月30日（金））

- ・我が国の現代美術を海外に発信するための方策等（意見交換・整理）

○第3回（平成26年6月17日（火））

- ・我が国の現代美術を海外に発信するための方策等（まとめ）

※検討を効率的におこなうため、第1回検討会終了後、各委員に対して、資料「論点(案)」の項目にそって意見の提出をお願いし、第2回の資料に反映させる。